

4年	課題（現状、傾向、課題分析）	改善プラン（改善のための具体策や取り組み）	成果と課題
国語	<ul style="list-style-type: none"> 既習漢字の「書き」の定着を図る必要がある。 自分の意見や考えを分かりやすく表現することに課題がある。 説明文や物語文の学習において、中心となる語や文を見付け出したり、叙述から心情を読み取ったりすることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝学習や授業の中でドリル等の副教材を用いて、書き順を意識した丁寧な文字指導を繰り返す。また、家庭学習等で、個人に応じた練習課題に取り組むようにする。 チャレンジタイムや授業の中で、対話的な学びの場を適宜設定し、考えを伝える経験を積む。また、国語科に限らず、自らの考えを体育ノートや道徳ノートに記す活動を通して表現力を養う。 説明文を要約する学習を設け、繰り返し出てくる語句に線を引き、中心となる語や文を見付け出しやすくする。また、心情を読み取るために、物語の背景や登場人物の性格を丁寧につかみ、心情を読み取ることができるようにする。 	
社会	<ul style="list-style-type: none"> 調査活動、地図帳や各種の具体的資料を通して、必要な情報を調べまとめることに課題がある。 資料から読み取ったことから、自分の考えをもつことに課題がある。 都道府県の位置関係を地図上で捉えることに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 資料から情報を読み取り、児童同士でお互いの気付きを共有し合う活動を取り入れ、多面的、多角的に考察することで、必要な情報を調べまとめる力を養う。 グループで自分の考えを話し合う場面を設定して、資料を基に考える力を養う。 地図帳を用いて位置関係を確認する時間を設け、視覚的に覚えられるようにする。 	
算数	<ul style="list-style-type: none"> 角度の読み方、一億より大きい数の読み方・書き方やしくみ、小数のしくみの理解に課題がある。 式や図などを用いて、根拠を明らかにしながら自分の考えを表現する力を伸ばしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> チャレンジタイム等の時間を活用し、繰り返し問題に取り組む習熟を図る。 自力解決の際に、図や数直線、言葉などを使って考えの根拠をノートにかき、自分の考えを話す活動を充実させて表現力を伸ばしていく。 	
理科	<ul style="list-style-type: none"> 既習の学習内容や生活経験をもとに、根拠のある予想や仮説を発想する力を伸ばしていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 予想するときは、日常生活に関連付けた事柄を紹介し、発想しやすくする。また、グループでの話し合いをし、自分の考えを深めていく場面を設ける。 	
音楽	<ul style="list-style-type: none"> 音楽を形づくっている要素をもとに、聴き取ったことと感じ取ったことを関わらせて表現することに課題がある。 思いや意図をもって表現するために必要な技能を高めていく必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 聴き取ったことに対して感じ取ったことをグループで話し合ったり、一言ずつ発言したりする活動を繰り返す。 自然で無理のない声で歌ったり、拍やリズム、フレーズを感じて演奏したりする体験を積み重ね、グループで歌や演奏を聴き合いながら表現力を伸ばしていく。 	
図工	<ul style="list-style-type: none"> 題材、めあてに即した工夫を考えられるようにするための手だてを講じる必要がある。 それぞれの材料に適した道具を選び、仕上げの丈夫さや美しさを考慮して、道具を使い分ける力を育てる必要がある。 作品を最後まで粘り強く仕上げ、題材のめあてを深めていく力を伸ばす必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の課題や特性に合わせて言葉をかけ、それぞれのペースでの基礎基本の定着を図る。 幅広い材料や道具を扱えるよう、単元の前半に造形遊びなどを取り入れ、道具に慣れ親しむ時間を確保する。 題材のめあて・ポイントを明示しつつ、授業の進行に合わせて新たな描画材や材料を示すことで、最後まで工夫を考えられるようにする。 	
体育	<ul style="list-style-type: none"> 学習を振り返っていく中で、自ら課題を見付け、その課題に対して適切な解決方法を選びながら学習する必要がある。 自分で見付けたポイントや、友達の動きを見て学んだことを分かりやすく友達に表現することに課題がある。 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を用いて客観的に動きを把握したり、協働的な学びを通じて、互いの課題を解決し合ったりする機会を設ける。また、解決方法を選択できるように、それぞれの児童に合った多様な課題解決の場を用意する。 学習を振り返る場を適宜設け、全体で学んだことを共有したり、体育ノートを活用し、学び方やポイントなどの気付いたことをまとめる活動を行う。 	